



# ループバック インターフェイス

---

この章では、ループバック インターフェイスを設定する方法について説明します。

- [ループバック インターフェイスについて \(1 ページ\)](#)
- [ループバック インターフェイスの概要 \(2 ページ\)](#)
- [ループバック インターフェイスの設定 \(2 ページ\)](#)
- [ループバック インターフェイスのモニタリング \(2 ページ\)](#)
- [ループバック インターフェイスの履歴 \(3 ページ\)](#)

## ループバック インターフェイスについて

ループバックインターフェイスは、物理インターフェイスをエミュレートするソフトウェア専用インターフェイスであり、IPv4 および IPv6 アドレスを持つ複数の物理インターフェイスを介して到達できます。このインターフェイスは、いったん有効にすると、シャットダウンするまで稼働し続けます。ループバックアドレスは、スタティックルートまたはダイナミックルーティングプロトコルを使用して配布されます。最大 1024 のループバック インターフェイスを設定できます。

ループバックインターフェイスは、パス障害の克服に役立ちます。インターフェイスがダウンした場合、ループバック インターフェイスに割り当てられた IP アドレスを使用してすべてのインターフェイスにアクセスできます。

ループバック インターフェイスは以下をサポートします

- BGP
- AAA
- SNMP
- Syslog
- SSH
- Telnet

## ループバック インターフェイスの概要

- ループバック インターフェイスは、高可用性をサポートします。
- 単一のループバック インターフェイスは、トンネルソースまたは VTI インターフェイスのトンネル IP アドレスのいずれかです。

以下を関連付けることができます。

- ループバック インターフェイスへの単一の IPv4 アドレスのみ。
- 複数の IPv6 グローバルユニキャストアドレスと、ループバック インターフェイスへのプレフィックス。
- ループバック インターフェイスへの 1 つの VRF のみ。

### クラスタリングとマルチコンテキストモード

- クラスタリングはサポートされません。
- シングル コンテキスト モードのみ。

## ループバック インターフェイスの設定

デバイス間のトラフィックにループバック インターフェイスを追加します。

### 手順

---

ループバック インターフェイスを作成します。

**interface loopback** 番号 {**ip address** アドレス | **ipv6 address** アドレス}

0 ~ 10413 の値を指定できます。

例 :

```
ciscoasa(config)# interface loopback ip address 10 10.1.1.1
```

---

## ループバック インターフェイスのモニタリング

次のコマンドを参照してください。

- **show interface**

インターフェイス統計情報を表示します。

• **show interface ip brief**

インターフェイスの IP アドレスとステータスを表示します。

## ループバック インターフェイスの履歴

表 1:ループバック インターフェイスの履歴

機能名	バージョン	機能情報
ループバック インターフェイスのサポート	918(2)	<p>ループバック インターフェイスを追加して、以下に使用できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BGP</li> <li>• AAA</li> <li>• SNMP</li> <li>• Syslog</li> <li>• SSH</li> <li>• Telnet</li> </ul> <p>新規/変更されたコマンド：<b>interface loopback</b>、<b>logging host</b>、<b>neighbor update-source</b>、<b>snmp-server host</b>、<b>ssh</b>、<b>telnet</b></p>



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。